

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



旧暦の3月3日を迎え、昼間に干潮時の潮位がマイナスになる季節を迎えます。潮干狩りなどの海での遊びが楽しみです。しかし海で遊ぶ際には、危険な生きものもいますので注意しましょう。「わきゃあまみ⑩海と山の危険な生きもの」も是非ご参照下さい。

さて、暖くなり新緑が美しい季節となりましたが、この時期に辛いのが花粉症です。島に住む人々にとってはなんのことやらと思うかもしれませんが、本土に住む人たちにとっては大問題。私もその一人でした。しかし、奄美に住むようになってからは、ほとんど発症しなくなり快適な生活を送っています。奄美などの離島では「花粉症の少ない島」としてツアーが組まれています。花粉症で悩まされていた私にとっては、なんて画期的な！と、驚きでした。奄美の魅力がこんなところにもあったんですね。奄美にはまだまだ発掘されていない魅力があります。島民一人一人が奄美の魅力を発見していき、島外の人たちへ発信していければよいですね。

(吉田)



今の時期に見られる動植物



リュウキュウウマノスズクサ

低地～山地の林縁に生える藤本。花卉はなく、筒状の萼（がく）の先が広がって花弁状になっている。奄美大島以南の琉球列島に分布。



ヒサカキ

やや乾燥した林内に生える常緑低木～小高木。奄美大島以南には琉球固有種であるアマミヒサカキも分布する。



ヘリグロヒメトカゲ

三島・トカラ列島から沖縄諸島まで分布する日本固有種。林などの湿った場所を好む。尾は長く体の半分を占めている。



オキナワイチモンジハムシ

奄美大島以南の琉球列島に分布。幼虫・成虫ともにガジュマル、ハマユビワ、オオイタビなどイチジク属の植物を食べる。



今季の一枚 「リュウキュウイノシシ」

今年はドングリが少なく、イノシシが人里までおりてきて農作物に被害を与えています。また、疥癬症にかかったイノシシが多く見付き、問題となっています。

リュウキュウイノシシは奄美大島、加計呂麻島、徳之島に生息。また、奄美大島と加計呂麻島との間を泳いで渡ることが知られています。沖永良部では本種ではありませんが、イノシシが人為的に導入されています。徳之島のリュウキュウイノシシは「絶滅のおそれのある地域個体群」として、環境省のレッドデータブックに記載されています。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は
奄美市
です



奄美市は、中核都市としての機能を持つ名瀬地区、緑豊かな森林を持つ住用地区、広い農地と美しい海岸線を持つ笠利地区で構成されています。

【ガジュマル】

奄美の象徴的な木で、奄美の民話に出てくる「ケンムン」の糖家とも言われています。※リュウキュウマツも市の木に指定されています。

奄美市の木



おすすめ

『名瀬地区・住用地区・笠利地区の主な観光名所』



名瀬地区

【大浜海浜公園】

奄美十景として知られる夕陽の美しい大浜海浜公園には、「奄美海洋展示館」があり、奄美近海の海洋生物やウミガメが保護啓発のため飼育されています。以前の大浜海岸は、たくさんのサンゴが生息していましたが、大規模な白化現象により、ほとんどいなくなりました。そこで、現在、奄美群島サンゴ礁保全対策協議会と連携して、サンゴ礁再生等に取り組んでいます。



【金作原原生林（金作原国有林）】

人と森林とのふれあいの場として設定された自然観察教育林で、ここには樹齢の高い天然林が多く残っています。ナゴランやオーストンオオアカゲラ等の希少な動植物が生息しており、近年、多くの人がエコツアーに参加しています。

住用地区 【マングローブ原生林】

ここのマングローブ原生林は日本で2番目に大きく、奄美群島国立公園特別保護地区に指定されています。隣には、動植物とふれあえる自然を基本とした自然回帰型の公園施設「黒潮の森マングローブパーク」があり、マングローブ原生林とリュウキュウアユを育む貴重な住用地区の自然を体験することができます。



笠利地区 【大瀬海岸】

奄美大島では最大規模の海鳥の渡りの中継地で、奄美空港の北に位置し、車で5分ほどのところにあります。夏にはアジサシ類、冬は主にカモ類やシギ類等、四季を通して様々な鳥を見ることができます。

（奄美市環境対策課）

いきもののふしぎ ～ 冬鳥のはなし ～

奄美群島には多くの冬鳥が渡来します。しかし、今年は冬鳥を見る機会が少ないように思います。そこで、過去のデータと比較しながら今年の冬鳥の渡来状況をみていきましょう。



冬鳥とは？

秋に北方の地域から渡ってきて越冬し、春には帰っていく鳥のことを言います。

奄美野生生物保護センターでは、冬鳥の調査を行っています。調査対象は、シロハラ・キセキレイ・サシバの3種です。この3種は、林道や林縁に多いので車からの調査がしやすいことや、個体数が多いので変動が分かりやすいことから、調査対象になっています。

● シロハラ

● サシバ

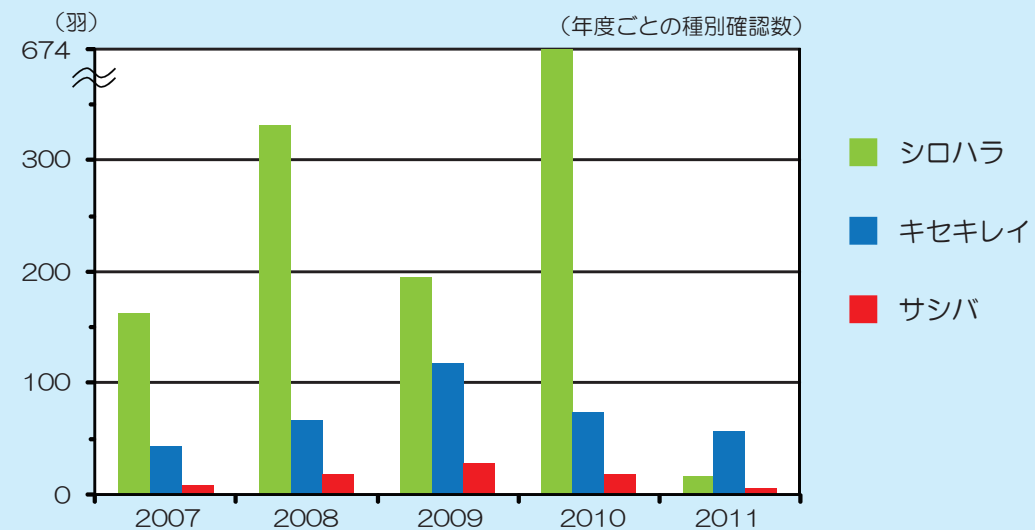
● キセキレイ



2008 年度～ 2011 年度の冬鳥

年度ごとの冬鳥の確認数をみていきましょう。

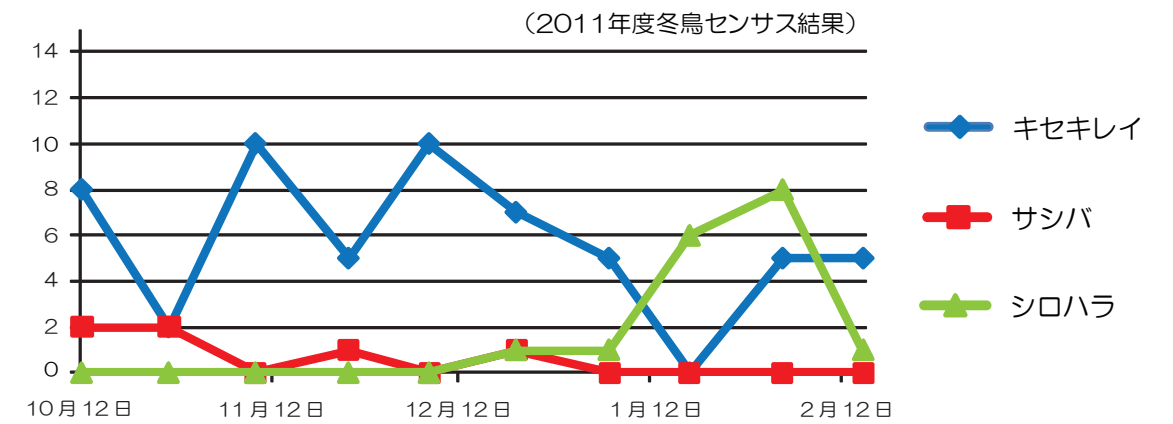
- 調査方法 ● 冬鳥が見られる9月頃から4月頃まで、決まったルートを車で走行し、観察された冬鳥の記録をつけていきます。



- ★ 2010 年度にシロハラが多く渡来していることが分かります。またこの年は、ヒヨドリも多く渡来し、農作物に大きな被害が出ました。
- ★ 今年度はシロハラの渡来数が少ないことが分かります。しかし、サシバ、キセキレイも若干少ないようですがシロハラほど顕著な違いはみられません。

今年の冬鳥

今年度の調査結果を詳しくみていきましょう。



シロハラの渡来時期が遅いことが分かります。毎年、冬鳥の渡来数にはバラつきがあるそうですが、今年は全国的に極端に少ないようです。

飛来数が少ない理由

- ★ 繁殖地の気象条件が悪く、繁殖が上手くいかなかった。
→ 繁殖に影響をあたえるような異常気象がみられなかったため、可能性は低い。
- ★ 今季は極東ロシアなどの北方や山での実りが豊富だったため、南下が遅れた可能性がある。
- ★ 昨年の11月は暖かい日が続き南下が遅れていた。12月になると一転厳しい寒波が襲来。厳しい寒波の襲来と例年より遅い旅立ちが重なったとすれば、飛翔力の弱い小型の鳥は海を渡るのを避け、内陸を南下し、中国の越冬地に向かったのではないかと推測される。

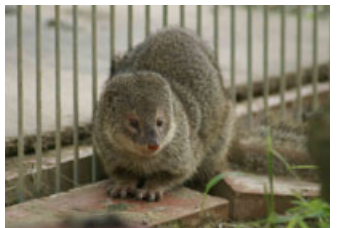
※公益財団法人日本野鳥の会 2011～2012 年小鳥類の越冬状況について、BIRDER4 月号より

以上の3つが可能性としてあげられます。しかし渡来数が少ない理由は、まだはっきりと分かっていません。



マンギースとシロハラの関係

シロハラは、冬場のマンギースの重要な食物となり、マンギースが増加する要因の一つとなっていることが最近の研究で分かっています。そのため、渡来数の少ない今年はマンギースにとって厳しい年となり、マンギース根絶を目指す我々は、これを機に確実に事業を進めていく必要があります。



冬鳥・いろいろ

奄美群島には多くの冬鳥が渡ってきます。一部ですが写真で紹介します。



※1 奄美大島では留鳥のものもいます。 ※2 奄美に留鳥としているのはヒヨドリの亜種「アマミヒヨドリ」です。

センター & 協議会 News



新

アクティブレンジャーからご挨拶

松田 維（まつだ たもつ）
出身地：東京都
好きなこと：サーフィン
家族構成：妻、長男（5歳）長女（3歳）と愛犬（雑種）の5人家族です。

みなさん、はじめまして！2月1日に着任いたしました松田維と申します。ただ今、奄美生活8年目・龍郷町赤尾木在住です。よろしくお願いします！



伊藤 結（いとう ゆい）
出身地：茨城県
好きなこと：鳥の羽やサンゴ、シーグラスなどを拾うこと、動物と触れあうこと。

12月からセンターの仲間に加わりました！アクティブレンジャーの伊藤結です。主にアマミノクロウサギ関係の仕事を担当しています。どうぞよろしくお願いします！



報告

あまみワイルドライフセミナー

テーマ：沖縄やんばるの森から見た奄美大島の自然
～固有鳥類と外来種問題について～

と き：平成24年1月22日（日）

場 所：奄美博物館

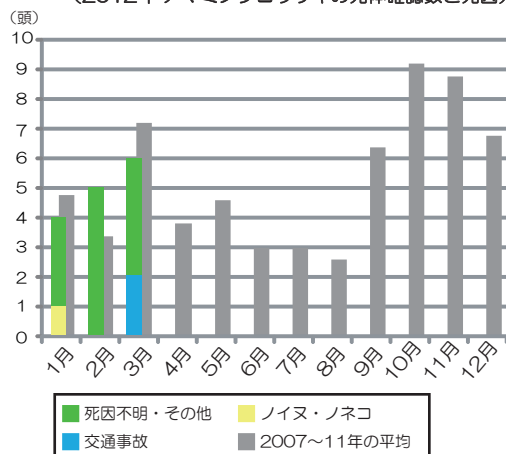
講 師：小高信彦氏（森林総合研究所 主任研究員）
鳥飼久裕氏（NPO法人奄美野鳥の会 会長）

参加人数：58名



アマミノクロウサギ死体確認数

（2012年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因）



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

安全運転

林道では20km/h以下で走行しましょう。

犬・ねこの適正飼育

捨てない

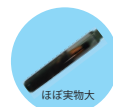
最後まで責任をもって飼いましょう

不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることになります。

マイクロチップ

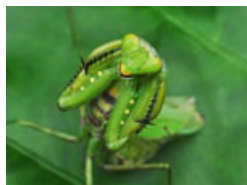
ペットの確実な身元証明になります。



犬・ねこに関するお知らせ

避妊・去勢手術をしましょう。犬・ねこはたくさんの子どもを産みます。自由に繁殖できる状況は、あっという間に数が増えてしまいます。しかし、実際には飼える数というのは限られます。また、避妊・去勢手術をすることによって、性ホルモンの影響による病気のリスクがなくなるメリットがあります。

いきものおもしろ写真館



ハラビロカマキリ

カメラに向かって、可愛いしぐさでポーズを決めてくれています。しかし、これは威嚇のポーズ。前足をかまきりボクサーのような姿勢をとっています。カマキリにとっては一生懸命なのでしょうが、そこが可愛くおもしろい写真です。

編集後記



今年の旧暦3月3日は、寒くて潮位もマイナスにならず浜下り日和ではなかったですね。前日は27.6℃と夏日を観測したのに、温度差がすごかったです。季節の変わり目、そして4月から新しい環境になる方もいらっしゃると思います。みなさんお体には十分気をつけて下さい。